

## 女川町復興まちづくり住民説明会（ニューこのり） 議事録

日 時：平成24年1月27日（金） 18：30～20：30

場 所：ニューこのり

対象者：

出席者：女川町 須田町長

復興対策室 赤間室長、柳沼参事、西尾係長、鑑氏、木村主査、神山事務員

### 1.挨拶 須田町長

### 2.資料説明：復興対策室 柳沼参事

- ①基本的な考え方
- ②断面図（案）
- ③高台移転候補地（案）
- ④まちづくりのスケジュール（案）
- ⑤具体的復興事業の概要
  - ・災害公営住宅整備事業
  - ・防災集団移転促進事業
  - ・漁業集落防災機能強化事業
- ⑥防災集団移転促進事業による移転者の再建収支試算（想定）

### 3.意見交換（Q；住民、A；町役場）

- Q. 高台移転の場所について、協議した。丸金と鳥居のうへのほうの場所をお願いしたい。  
理由は、今回町のほうで指定された場所は、津波には確かに強いと思うが、沢水が多い。もう少し他の地域と繋がるような場所。環境面でも、日当たり海を見て育ってきたということから、海が見える場所。地権者が地域の方が多いため協力を得やすい。
- A. 区の意見を考慮して進める。
- Q. 集落のコミュニティー維持のため、高齢者の為に、災害公営住宅の建設を早く進めて欲しい。
- A. 地区のコミュニティー維持は大切。漁業地区以外は集合タイプの整備となる。場所についてはこれから意向調査とかを元に計画を詰めていく。
- Q. コバルトライン避難道路、原発避難道路を計画に入れて欲しい。
- A. コバルトラインと他の道路、小乗地区が繋がる道路整備は県と協議して進めていく。
- Q. 小乗の工事の何番目になるのか。
- A. 堀切山が3期目で小乗はその前。
- Q. 26年後半までには確実にできるのか。
- A. 用地買収の状況と、入札の成立によるが早期着工を目指す。
- Q. JRの見込みはどうか。
- A. JRから復旧は確約されている。渡波まで復旧は今年度中。浦宿までは2年以内。女川駅まで来るのはもう少しかかる。
- Q. 宿泊業を再開したいが、土地の面積は100坪ではどうかと。
- A. 現段階では平均100坪ということで理解してほしい。これからやる中で詰めていく。商売やる上での跡地利用については基本的には個々の相談をうけていく。
- Q. 盛土造成について不安がある。
- A. 宮城県沖地震以前の宅地での被害が多い。盛土についてはこれまで十分施工実績あるところとか、技術的に間違いのないものを専門家からアドバイスをもらい実施していく。
- Q. 浸水した土地を国で買い上げた場合、その買い上げた金額の所得税というのはとられるのですか。
- A. 2,000万円までは非課税。
- Q. 土地購入の場合、取得税は適用されるのか。

- A. いろいろなパターンがあるので、個別に相談を受ける。
- Q. 小学校は今後どのような形になっていくのか。
- A. 将来的には小中一貫校のようなスタイルということも思っている。町が設置したまちづくり協議会が主体となって議論してもらおう。今どうするかと、将来の姿二つの視点で検討していきたい。
- Q. とにかく、早くやってほしい。
- A. 水道、下水、電気全部やり直し。そうすると、全体のこれからの進みというふうに見たときに、現有地使っても高台やってもそれほど時間的には半年とか1年、であるなら安全と、生活再建上の国から来るお金の有利さとか含めてこれはやっぱり高台でということがひとつ、町として改めて理解を頂きたい。一日でも1カ月でも早くという努力はしていく。

以 上